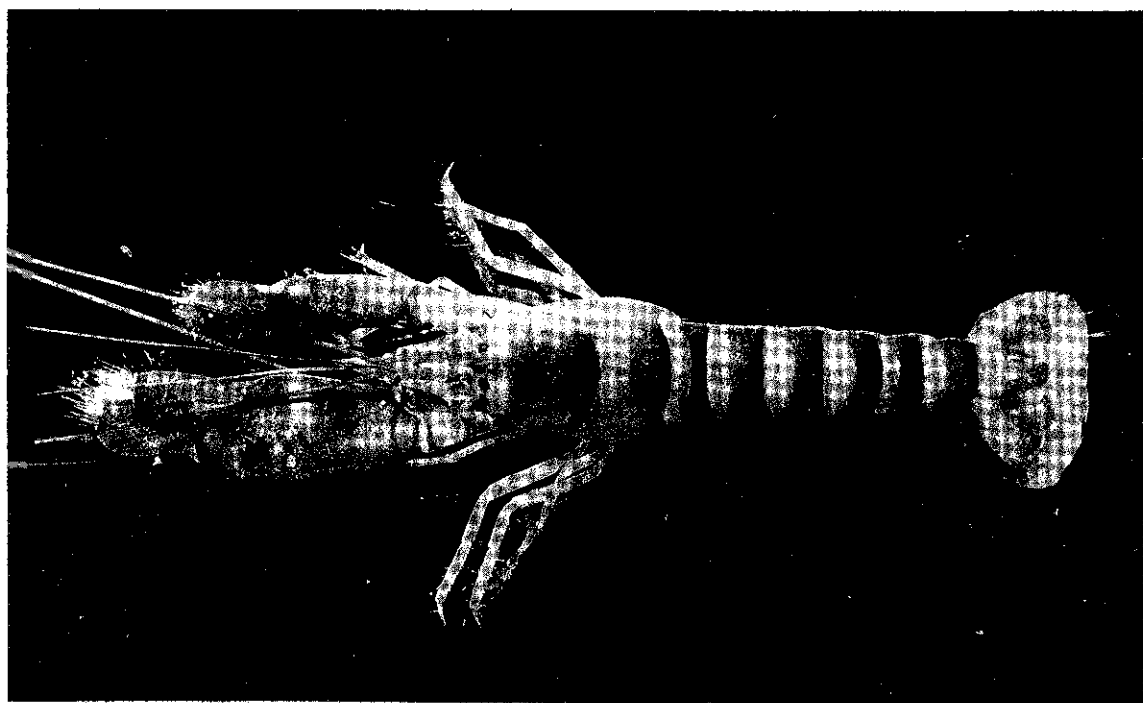


串本海中公園 マリンバピリオン

1997. 12.

Vol. 26, No. 12



フタゴテッポウエビ（仮称）

Alpheus sp.

潮間帯から潮下帯の転石下に生息する。体の背面には暗色の横帯模様がある。大鉗掌部上縁の肩は丸く、その先端はわずかに前方に突出する。小鉗は雄のみ毛冠を持つ。本種と同所的に出現するオハリコテッポウエビ *Alpheus heeia*（本紙 Vol. 21, No. 4 で示したスネトゲテッポウエビは同物異名）とは色彩や形態が酷似し、外見では区別が不可能であるが（仮称和名の由来）、後者の第3顎脚の先端から2節目には特異な剛毛束があるのに対し本種にはこれがないこと、本種の第3胸脚指節は垂へら状を呈するのに対し、後者のそれは平たくならないことで区別される。

手元には千葉、神奈川、和歌山及び山口の標本があり、串本では内湾の潮間帯域で採集されることが多い。写真の個体は下関市吉見の水産大学校桟橋下、水深3mの海底より採集された体長約25mmの雄。テッポウエビ科。

K. N.

串本海中公園センター

ANTHOZOOLOGIA (69)

花虫類 その39

内田 紘臣

前回(Vol. 26: 57) に引き続き、著者の最も妥当と考える花虫類の分類体系を示す。

Subphylum 2. ANTHOZOA

Ehrenberg, 1831

花虫動物亜門

Class 1. Octactiniaria Beneden, 1898

八放サンゴ綱

Order 1. Alcyonaria

Lamouroux, 1816

ウミトサカ目 (前回に示した)

Order 2. Helioporacea

Bayer & Muzik, 1977

アオサンゴ目 (2科)

(Vol. 25: 59)

Order 3. Pennatulacea Verrill, 1865

ウミエラ目

(Vol. 21: 59)

Suborder 1. Sessiliflorae

Kükenthal, 1915

定座亜目 (11科)

(Vol. 24: 52)

Suborder 2. Subselliflorae

Kükenthal, 1915

半座亜目 (3科)

(Vol. 24: 52)

Class 2. Paranemata Bronn, 1860

異触手綱

(Vol. 21: 40)

Order 1. Ceriantharia Hertwig, 1882

ハナギンチャク目 (3科)

(Vol. 6: 57, 7: 3, 25: 77)

Class 3. Zoantharia Blainville, 1830

スナギンチャク綱

(Vol. 15: 58, 16: 11, 19: 63, 21: 58

-59, 23: 26, 23: 45, 26: 3, 26: 51)

Order 1. Zoanthinaria Beneden, 1898

スナギンチャク目

Suborder 1. Brachycnemina

Haddon & Shackleton, 1891

短膜亜目 (2科)

(Vol. 23: 4 の図1 右端図に示したように、背側方向隔膜から数えて5番目の隔膜が口道に達しない不完全隔膜となる)

Suborder 2. Macrocnemina

Haddon & Shackleton, 1891

長膜亜目 (2科)

(背側方向隔膜から数えて5番目の隔膜が口道に達する完全隔膜となる)

Class 4. Cauliculata

Milne-Edwards & Haime, 1851

灌木サンゴ綱

(Vol. 20: 16)

Order 1. Antipatharia Dana, 1846

魔除サンゴ目 (角サンゴ目)

(Vol. 23: 45 & 64-65)

Suborder 1. Holodactylina

Pax, 1918

全指亜目 (3科)

Suborder 2. Dendrodactylina

Pax, 1918

樹指亜目 (1科)

(八放サンゴ類がツノサンゴの骨格上に生育したもの?,

Vol. 21: 40)

Class 5. Dodecactiniaria

Stephenson, 1920

十二放サンゴ綱

(Vol. 24: 40-41, 53)

Subclass 1. Endogonadida (仮称)

内生亜綱 (仮称)

(生殖巣が隔膜の中膠層に包まれず、内胚葉層に飛び出る)

Order 1. Ptychodactiaria

Stephenson, 1920

ヒダギンチャク目

- (Vol. 24: 52-53 & 59)
 Suborder 1. Ptychodactiaria
 Stephenson, 1920
 ヒダギンチャク亜目 (1科)
 (Vol. 24: 52-53)
 Suborder 2. Dactylantharia (仮称)
 イボギンチャク亜目
 (仮称) (1(or 2) 科)
 Subclass 2. Mesogonadida (仮称)
 中生亜綱 (仮称)
 (Vol. 24: 23 の図2 に示したよ
 うにほとんどの六放サンゴ類
 は生殖巣が隔膜の中膠層に包
 れる)
 Order 1. Scleractinia Bourne, 1900
 イシサンゴ目
 (Vol. 24: 10-11 & 59, 26: 22-23)
 Suborder 1. Archeocaeniina
 Alloiteau, 1952
 ムカシサンゴ亜目 (3科)
 (Vol. 26: 22)
 Suborder 2. Dendrophylliina
 Vaughan & Wells, 1943
 キサンゴ亜目 (2科)
 (Vol. 24: 59)
 Suborder 3. Fungiina Verrill, 1865
 クサビライシ亜目 (6科)
 (Vol. 21: 59 & 24: 59)
 Suborder 4. Faviina
 Vaughan & Wells, 1943
 キクメイシ亜目 (9科)
 (Vol. 24: 59)
 Suborder 5. Meandriina
 Alloiteau, 1952
 ウネリサンゴ亜目 (2科)
 (Vol. 26: 23)
 Suborder 6. Caryophylliina
 Vaughan & Wells, 1943
 チョウジガイ亜目 (9科)
 (Vol. 24: 59)
 Order 2. Corallimorpharia
 Carlgrén, 1940
 ホネナシサンゴ目 (4科)
 (Vol. 24: 59)
 Order 3. Protanthea
 Carlgrén, 1891
 ムカシイソギンチャク目
 (2科) (Vol. 24: 23)
 Order 4. Actiniaria Dana, 1846
 イソギンチャク目
 (Vol. 19: 28)
 Suborder 1. Boloceroidaria
 Carlgrén, 1924
 オヨギイソギンチャク亜目
 (3科) (Vol. 25: 28)
 Suborder 2. Edwardsiaria
 Hertwig, 1882
 ムシモドキギンチャク亜目
 (2科) (Vol. 25: 28)
 Suborder 3. Mesomyaria
 Stephenson, 1921
 中筋亜目 (6科)
 (Vol. 24: 53)
 Suborder 4. Acontiaria
 Stephenson, 1935
 槍糸亜目 (23科)
 (Vol. 25: 28)
 Suborder 5. Endomyaria
 Stephenson, 1921
 内筋亜目 (14科)
 (Vol. 24: 53, 25: 28)
 Order 5. Endocoelanthaeina
 Carlgrén, 1938
 内腔目 (2科)
 (Vol. 24: 53 & 58, 25: 28)

これで花虫綱の概説を終える。つづいて八放サンゴ類の概説及び各グループの各論に入るが、八放サンゴ類については岩瀬君が引き継ぎ、その後六放サンゴ類に至って、再び小生が引き継ぐ予定である。

水族館トピックス -52-

串本で採集された
ハワイカザリセミエビ (仮称)

野村 恵一

本邦海域では記録のなかったイセエビ類 (イセエビ下目セミエビ科) の一種、*Arctides regalis* Holthuis, 1963 の雄1個体 (体長15.8cm) がこのほど当地で採集されたので紹介する。

本個体は、本年11月8日に串本町田並、田ノ崎沖水深30mの海底より網揚げされたイセエビ刺し網に混獲されたものである。本種の体長は17cmまで (Holthuis, 1991) とのことなので、串本で採集された個体は成体と考えられる。

本種の外見はヒメセミエビ属 *Scyllarus* の種に似るが、本種はそれよりもずっと大型になり (ヒメセミエビ類はほとんどが体長10cm以下)、葉状の第2触角を縁取る鮮やかなピンク色の帯と、胸脚にある同色の帯模様が印象的な美しい体色を呈する。分類学的にはヒメセミエビ属よりもセミエビ属 *Scyllarides* に近く、セミエビ属は腹部背面がなめらかで彫刻模様がないうのに対し、*Arctides* 属は同部に彫刻模様を持つことで識別される。

本種はハワイ諸島 (模式産地) からよく知られ、これまで模式産地以外ではインド洋のモーリシャス諸島及びリユニオン諸島、太平洋のニ

ューカレドニア及びイースター島と産地が限定されていた (Holthuis, 1991)。串本での本種の採集は日本初記録となるばかりでなく、これまでの分布北限 (ハワイ諸島) を大幅に更新することになる。

本種の種小名 *regalis* (王を意味する) は、海洋生物学の発展に貢献された当時のハワイ女王 Mary Eleanore にちなんで与えられた (Holthuis, 1963)。従って、とりわけハワイとの関連が深い種であるので、本種に対し表記の仮称和名を与えた。

本個体は、現在、水槽馴化と餌付けを兼ねて予備水槽で飼育中であるが、今月末より特別コーナーを設けて展示を始める予定である。



串本産のハワイカザリセミエビ (仮称)

Vol. 26 総目次

Vol. 26 No. 1

表紙 クレナイヤドリテッポウエビ	1
ANTHOZOOLOGIA (65)	
花虫類 その35	内田紘臣 2
1996年鯖浦定置観測のまとめ	宇井晋介 4
鯖浦の海から	宇井晋介 6

Vol. 26 No. 2

表紙 オカメテッポウエビ	7
--------------	---

いそこじき18 串本産稀魚の紹介	御前 洋 8
ウミウシの特別展示を終えて	小寺昌彦 10
鯖浦の海から	宇井晋介 12

Vol. 26 No. 3

表紙 インペイトテッポウエビ (仮称)	13
海中展望塔に集まる魚 (20)	
1996年1月~12月	福田照雄 14
岩礁海岸の潮間帯で見つかった	
ミナミテナガエビ	永田理雄 16
鯖浦の海から	宇井晋介 18

Vol. 26 No. 4

表紙 スンナリミツミゾテッポウエビ(仮称) 19
人工産卵場でのアカウミガメの産卵状況

(5-2) -飼育個体による繁殖- 宮脇逸朗 20

ANTHOZOOLOGIA (66)

花虫類 その36 内田紘臣 22
錆浦の海から 宇井晋介 24

Vol. 26 No. 5

表紙 アカシマオハリコテッポウエビ(仮称) 25
ミニ水槽の生物とその飼育 (14)

カニ類 -その2- 野村恵一 26

重油流出事故後の日本海潜水雑記 宇井晋介 28

スズメダイの特別展示を終えて 小寺昌彦 29

錆浦の海から 宇井晋介 30

Vol. 26 No. 6

表紙 クレナイアミメテッポウエビ(仮称) 31

稚サンゴの成長 (2)

タバネサンゴ -その2- 御前 洋 32

宮崎県・海中公園地区めぐり

その1 森 美枝 34

第63回近畿ブロック水族館飼育係研修会

開催 宇井晋介 35

錆浦の海から 宇井晋介 36

Vol. 26 No. 7

表紙 オオツツテッポウエビ (仮称) 37

海のうわさ話 (5)

潮岬灯台下の「浮ガメ」 宮脇逸朗 38

宮崎県・海中公園地区めぐり

その2 森 美枝 39

ミニ水槽の生物とその飼育 (14)

カニ類 -その3- 野村恵一 40

錆浦の海から 宇井晋介 42

Vol. 26 No. 8

表紙 トゲナシミドリツノテッポウエビ(仮称) 43

定置網で漁獲された魚類について (3)

1994年から1996年の結果 御前 洋 44

漂着した謎のボール 宇井晋介 46

第24回マリンスクール

47

錆浦の海から

宇井晋介 48

Vol. 26 No. 9

表紙 ウスアカツノミゾテッポウエビ(仮称) 49

ANTHOZOOLOGIA (67)

花虫類 その37 内田紘臣 50

水族館トピックス

-51- キスジキュウセン 小寺昌彦 52

実習生思考 '97 52

錆浦の海から 宇井晋介 54

Vol. 26 No. 10

表紙 キヌゲテッポウエビ 55

海のうわさ話 (6) グラスボート発着場

に現れるアカウミガメ 宮脇逸朗 56

ANTHOZOOLOGIA (68)

花虫類 その38 内田紘臣 57

ブルネイの海 その1 宇井晋介 58

錆浦の海から 宇井晋介 60

Vol. 26 No. 11

表紙 トゲツノテッポウエビ 61

イシサンゴの産卵と幼サンゴの定着状況

-1997-の観察より 御前 洋 62

黒潮からの便り -10-

本州初記録の魚3種の紹介 御前 洋 63

ブルネイの海 その2 宇井晋介 64

錆浦の海から 宇井晋介 66

Vol. 26 No. 12

表紙 フタゴテッポウエビ (仮称) 67

ANTHOZOOLOGIA (69)

花虫類 その39 内田紘臣 68

水族館トピックス -52-

串本で採集されたハワイ

カザリセミエビ (仮称) 野村恵一 70

Vol. 26 総目次 70

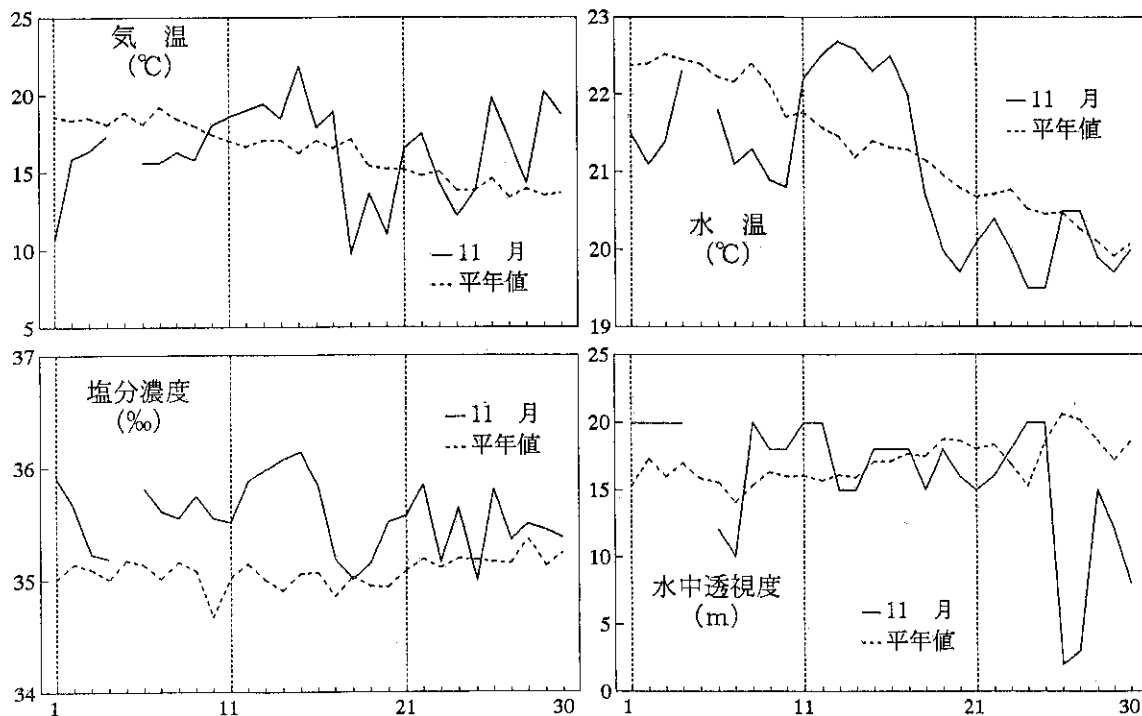
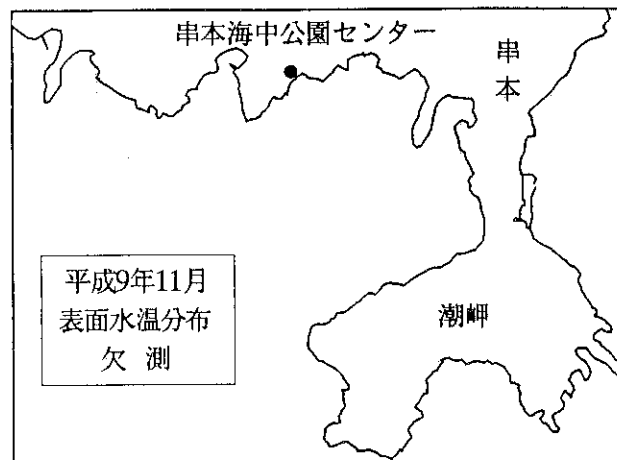
錆浦の海から 宇井晋介 72

鯖浦の海から 宇井晋介

11月 平均値	気温 16.4℃	水温 21.0℃	塩分 35.6‰
	透視度 15.9 m	月間降水量 147.5 mm	

地球温暖化についての削減案がようやく決まった。目標値の設定にはまだ不満もあるようだが、決まらないままガタガタやるよりは、まずはブレーキを踏むことを決めたことを評価したい。ところで温暖化ガスの処理方法の一つとして、二酸化炭素を高圧、低温の深海底に送り込み、シャーベット状にして捨てる方法を研究中という。深海は生物が棲むには極めて過酷な所であるが、それに適応して実に様々な生き物が

繁栄していることが最近分かってきた。深海の生物には、浅い海での生存競争から逃れて徐々に移住していった生物も少なくないというが、せっかく苦勞して越してきた先でまたゴミの追い打ちとは、たまったものではなかろう。と言いながら、自身は目覚めればテレビ、ストーブのスイッチを入れ、車で通勤することに何の疑問も感じない。少しは冷たい暗闇で生きる彼らの気持ちになることも必要かもしれない。ちょうどよい季節である。



マリンパビリオン Vol. 26, No. 12 通巻 312号
 1部 50円 (年間購読料 1,500円)
 印刷日 平成9年 12月 20日
 発行日 平成9年 12月 25日
 口座番号: 00990-9-41351
 口座名称: 串本海中公園マリンパビリオン
 編集兼発行人
 〒649-35 和歌山県西牟婁郡串本町有田1157
 (株) 串本海中公園センター
 電話 07356 (2) 4875
 FAX 07356 (2) 7170
 印刷所
 坂本印刷
 串本町串本 Tel: 07356 (2) 0895